

ムソルグスキー / 組曲「展覧会の絵」(オーケストラ用編曲ラヴェル)

有名になったり人気が出たりするきっかけはわからないものです。2016年日本発の1分ほどのYouTube動画が世界レベルでバズりました。「バズる」とはSNSやインターネット上で多くの人から注目を浴びることです。ピコ太郎なる人



物が派手な衣装で踊る「PPAP」はジャスティン・ビーバーがお気に入りの動画として紹介したことで、ネットの世界を超えマスコミや行政までもが彼を起用しました。古坂大魔王氏をはじめ多くの人がある成功理由を分析していますが、強烈なキャラ設定があったことは多くの人認めるどころです。

組曲「展覧会の絵」がムソルグスキーの生前に一度たりとも演奏されることはなく、死後遺稿整理で発見されるまで10年余り日の目を見ることがなかったピアノ曲です。

ブレークのきっかけは、管弦楽の魔術師ラヴェルが依頼された編曲版で、どちらかという地味な響きのピアノ曲に強烈なキャラ設定を施した世界的なヒットでした。ラヴェル編曲版をきっかけにピアノ原曲も演奏される機会が増え、原曲の素晴らしさからなのか、ラヴェル版からのイマジネーションなのか、その後ギターソロからファゴット4重奏、ロックバンドまでさまざまな編曲演奏が生まれました。



今回はモナール校訂の最新刊楽譜で演奏します。この校訂版はラヴェルの自筆譜を基に、従来見過ごされてきた違いに着目し、ラヴェルの意図に沿うように編纂されています。ラヴェルのサウンドを存分にお楽しみください。